

同志社大学通信

# ONE PURPOSE

FOR BETTER COMMUNICATION



創立125周年記念特集 第3弾 / 三つの視点から同志社大学の歴史を知る

同志社人訪問 / 一瀬 直和さん  
伝統を受け継ぐ若き京指物師に聞く

No.125

2000 DECEMBER

DOSHISHA UNIVERSITY



10月2日から13日の間、明徳館ラウンジで経済学部河島ゼミ主催による現代美術の企画展覧会「Remedy」が開催された。アートへの認知度をあげるため最低コストで美術展を開催した実験的かつ意欲的な試みだ。

COVER STORY

[ 表紙の情景 ]



左より、兼子真樹さん(神学部4年次生)、津田能人講師、関斐朗さん(神学部3年次生)、近藤誠さん(神学部3年次生)、冨名腰元子さん(神学部3年次生)

神学館3階にある礼拝堂は、チャペル・コンサートや公開講座の会場としても使用されているので知る人も多い。中央の講壇奥の壁面をステンドグラスが彩り、左手にはパイプオルガンが置かれており、もっとも同志社らしさを感じさせる場所のひとつとなっている。

取材当日は、神学部の「キリスト教文化学演習7」の授業が行われていた。パイプオルガン奏者として有名な神学部嘱託講師津田能人先生のもと、四人の受講生がバハのオルガン曲のレッスを受けていた。パイプオルガンは、一種の金管楽器で、鍵盤とペダル操作でパイプが美しい音を奏でる。同礼拝堂のパイプオルガンは、2段の手鍵盤とペダル鍵盤、十二のストップがあり、およそ八百本のパイプからなっている。津田先生は「決して大きい方ではありませんが、この礼拝堂の音響効果とあわせて私の大好きなパイプオルガンのひとつです」と語る。受講生は、通常ピアノなどで個人練習をしているが、ペダルはもちろんな、オーケストラのような重奏音が出せるまでにはまだまだこれからという。

C O N T E N T S



創立125周年記念特集 第三弾  
特集

フィールド調査  
「三つの視点から  
同志社大学の歴史を知る」2



同志社人訪問 一瀬 直和さん  
伝統を受け継ぐ若き京指物師に聞く

7

キャンパスニュース 10

@Program 13

来年度就職を目指す諸君へ  
就職活動Q & A 15

ゼミ・ゼミ おじゃまします 経済学部：竹廣 良司ゼミ  
企業行動の研究を通して「実社会」を考える 19

ONE PURPOSE コメンタリー 21

本学教員の推薦する VIDEO&BOOK 23

私と「仕事」 25

# 三つの視点から 同志社大学の歴史を知る

〜フィールドワークを通して、私たちの学舎まなびやを考える。

創立百二十五周年を記念して本誌百二十三号、百二十四号で特集を組んできた。本号では、特集最後の企画として、学生有志による「わが学舎」を検証してもらった。集まった学生八人が、三つの班に分かれ、それぞれが決めたテーマのもと、自らの足で取材し、文献をあたり、語り合つてまとめた小レポート。彼らは何を発見し、歴史の重みをどのように感じただろうか。

## 今出川キャンパス周辺探訪

### 松乃家

今出川から新町に向かう途中にある食堂  
そう、同志社大学の学生なら誰もが知っている



松乃家は、昭和十五年からこの場所で店を構えている。戦前には学生を下宿させていたというくらい、同志社大学の学生とはなじみの深い食堂である。二、三人分あるという名物の大もりは、学生からのリクエストでメニュー化された。昔に比べて、学生があんまり反応してくれなくなった。ごはんの量とか、味とか……。満足してくれているのかな？ たまに心配になるんですよ。お腹痛の薬ない？と来る学生もいました。でも、変わった、変わったというけど学生の根本は変わってないと思

ます。活があつてみんな楽しそう。大もりも、注文したほとんどの人が食べきっていきます」と三代目は語ってくれた。

### 長谷川邸

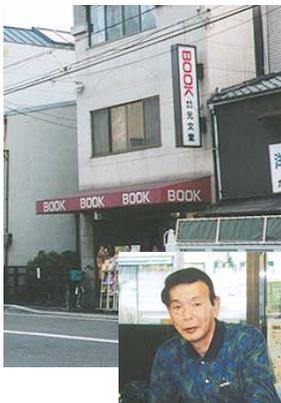
多くの学生が下宿先にマンションを選ぶ時代。しかし、そこは広い同志社大学。今もなお間借りで住んでいる人も少なからずいる。そんな学生たちを七十年以上、三代にわたる面倒を見てきているのが長谷川さんである。このような下宿先もバイトやサークルやらでそれぞれの生活時間が違つたため、常にお隣同士の交流があつた昔と比べて隣の部屋の人や大家さんとの交流が減ってきている。そこで、今は下宿生みんなが集まつて月一回の夕食会を開き、語り合つ場を設けているそう。そんな学生を見て、「昔と比べると心を開くのに時間がかかるようになってきたけど、温かい『情』を持っているのは変わらない」と言つた。お話を聞いている間ずっと笑顔を保ち、絶やさぬ長谷川



さん。このような人達に支えられて、人情に厚い学生が育っていくのだろう。

## 元文堂書店

大正十五年から営業を始めた元文堂書店。当時から教科書や専門書を取り扱っており、同志社大学の学生なら一度は立ち寄ったところがある書店だ。現在の場所に移転してからはまだ七年だが、四代にわたって学生達を見



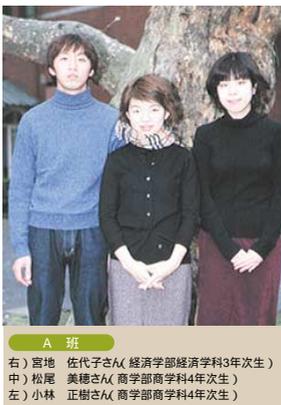
守ってきた。お店の主人にお話を伺ったところ、遊ぶ時は遊び、勉強する時は集中して勉強する」といつのが変わらぬ同志社大学生のイメージだそう。しかし、学生の活字離れが進んでいるのは確か。今の学生にもちと本を読んでほしい」とのお話も印象的だ。京田辺キャンパスへの一部移転もあり、今出川周辺の環境はすいぶん変わった。時代とともに学生も変化していくが、ご主人のいう同志社大学の学生らしさを失わないで欲しいものである。

## 同志社大学における先生・学生間の歴史的検証

同志社大学ほど、学生と先生との関係に意を用いてきた大学は少ないだろう。そこで、

私たちは、学生と先生との関係を検証することにした。

創立者である新島襄はいかに学生と向き合おうとしたのか、まず、新島の学生との関係を見ることにする。新島は、大学設立の旨意で、「知育に偏ることなく」、「良心に従い行動のできる人物を養成する」と述べ、学術のみならず、人格教育を主体として、自立自立の人物を育てることを大学教育の目的とした。「自費の杖」事件(注)などは、こうした



A 班  
右) 宮地 佐代子さん(経済学部経済学科3年次生)  
中) 松尾 美穂さん(商学部商学科4年次生)  
左) 小林 正樹さん(商学部商学科4年次生)

理念を象徴するものではないだろうか。このような教育は、現在から見ると、非現実的な側面があることは否定できないが、人格教育を行うには最良だった。新島の死後もこの教育は続いたが、専門学校令によって、同志社大学となる頃(一九二二年)から、変化し始めた。この時期に、同志社大学は、官立の大学に対抗するため、開校以来の土曜休業を廃止した。それまで同志社では日曜日は教会生活を送るための「安息日」であり、フリーな休日ではなかった。こうして、人格教育主体の教育方針から知育教育主体へと傾いていく。しかし、当時の総長である原田助や海老名弾正は、新島の直接の教え子でもあり、徳育教育を決して軽んじはしなかつた。

その後、戦後の学生数の急増に伴い、大学も大幅に変化していく。これは、同志社大学に限らず、全国どの大学においても見られ、大学がマニュアル化していく時代となっていた。現在の大教室での学生が完全に受け手





明治9年当時の聖書教壇 三十番教室)

に回った講義形態や、ほかから干渉されたくないという現代の学生気質も先生との関係の希薄化につながっているのではないかと。かつては先生からしか得られなかった知識や情報が、今日では、先生以外の様々な媒体から得られる時代となった。そのため、学生にとって先生との関係の必要性が少なくなってきたというのではないだろうか。では、全く新島の理念は、現代の同志社に受け継がれていないのだろうか。確かに、学生数が二万人を超える現在では、大学設立当初のような授業形態による人格教育を行うことは困難である。しかし、同志社大学がなにより自由な校風であることがその理念を今に伝えていっているのではないかと。それは、自由であるがゆえに、自分の

## 京田辺キャンパス再考

京田辺キャンパスは一九八六年四月に開校し、全学部の一、二年次生の授業を開始した。今年で十五年目、いまや、すっかり同志社大学の顔となった。

一八七六年、今出川校地に同志社最初の

考えをしかりもち、その良心に従い行動する自治自立の人物になることを伝えようとしているのではないかと。同志社大学には、学生が必要としたときにはその求めに応じてくれる姿勢がある。このような姿勢に現代の学生と先生との間に有益な関係を見出すことができる。これこそが、新島の言わんとしたことではないか。

今年、同志社大学は創立百二十五周年を迎える。これを、知・徳・体・心・バランスのとれた全人教育を志した新島襄の教育への理念を今一度認識し、その実現にむけて歩み出す契機とした。

(注)一八八〇年四月十三日、上杉組の合併に反対した生徒らが集団欠席するという事態に、新島は朝の礼拝の席で、このような事態に手はたは校長である自分の責任である、校で左筆を数度にわたりに痛打し、校は三に折れた。生徒にわかって罰を受けたのである。



B 班

右) 宮崎 博嗣さん(法学部法律学科4年次生)  
左) 土佐 卓司さん(法学部法律学科4年次生)

専門校舎二棟と食堂が建って以来、学生数は次第に増えて、一九六〇年代には約二万人に達していた。今出川・新町キャンパスには、さらに校舎を建てる余裕はなく、学生はあふれんばかりで、新キャンパスが求められ

る状況にあった。現在、今出川・新町キャンパスには約一万二千名の学生が学んでいるが、この数字だけ比べてみても、いかに多くの学生が集中していたか想像できるだろう。そこで、一九六六年、一九六八年にわたり、京田辺の地に土地を購入。一九八五年に本格的に工事を着工し、約一年で竣工、一九八六年に開校した。京田辺の地は、偶然にも新島襄とかがわりのあるところであり、一八八一年この地に南山義塾という先進的な私塾が開設された際、新島はその開塾を祝い、ゆづりを送っている。不思議な縁である。

「このキャンパスの特色は、なんとと言っても機能的に配置された校舎・空間で、正門を今



造成中の京田辺キャンパス(田辺新キャンパス建設事業概要より)

てすぐに眼に入るのが、芝生の大きな広場。その後方には、大学の頭脳ともいっべき、ネッ下記念図書館があり、この建物を中心に、教室棟、工学部棟、食堂棟などが取り囲んでいる。よく留学生から、アメリカの大学のようにだと聞くことがあるが、それもそのはず、この



開校当時の京田辺キャンパス。樹木の大きさが現在とは格段に違うのが分かりいただけるだろう。

校舎の配置の仕方は、アメリカの大学によく見られるのだそうだ。新島も生前、アメリカの大学のような機能的な校舎配置を熟望していた。いわば、これは新島の遺志が生かされた校舎配置といえよう。現在も、新たに知能情報センターが建設中であるが、最初から今の施設がすべてあったわけではなく、工学部棟、恵道館、紫苑館などは一九九四年の工学部統合移転時の完成である。ちなみに、今の学生の方々には信じられないかもしれないが、開校当時、教室には冷房がなかった。

京田辺キャンパスでは、体育施設の充実も図られた。デイヴィス記念館をはじめ、さまざまなグラウンドが作られ、京田辺キャンパス開校以前は、学外での練習を余儀なくされていたクラブも、開校以降は、より練習に専念できるようになった。体育の授業も幅が広がり、さまざまな種目が選択できるようになった。

自然も多く、駅から校地にいたる坂道もじっくり眺めて登れば、ここにも四季を感じることができる。また京田辺という土地は歴史のあるところで、キャンパス内にも古墳が多数あり、出土品も多いことはご存知のことであろう。自然系等実験実習棟の中には、出土品などを展示する歴史資料館がある。まだ訪れたことのない方は一度訪れてみてはいかがだろうか。一見の価値はあるだろう。

キャンパス周辺の変化は激しい。開校当時、大学の周りにほとんど店はなく、近鉄新田辺・JR京田辺駅周辺も空き地が多く、先輩の話だと、新田辺駅と京田辺駅は互いに見渡せたそうである。

JRも、今では快速電車が学生の足とな



現在の京田辺キャンパス

っているが、開校当時は二両編成のディーゼルカーが一時間に二本程度しかなく、発車時刻を少しでも間違えると、長い間待たなくてはならなかったそうだ。

はじめてこのキャンパスを見たとき、何でもできそうな気がした。これから同志社大学の門を叩く学生が、このキャンパスにどんな絵を描いていくのだろうか。



C 班

右) 久保 英昭さん(法学部法律学科4年次生)  
 中) 刘屋 優子さん(工学部物質化学工学科3年次生)  
 左) 白浜 蓮志さん(法学部法律学科4年次生)

# 同志社大学—歴史の探訪を終えて

最後に、百二十五周年の記念として今回の企画に協力していた  
 だいた八人に意見を交換してもらった。すべては収録できないが、  
 取材を通じて深まった同志社への理解の一端を伝えてみたい。

小林 A班はキャンパスおよび周辺の聞き取り調査から、同大生の生活あるいは気質の変遷のようなものを調べてみました。

宮地 「長谷川邸」に取材に行きたときは、偶然四十年前に下宿していたという方が訪ねて来られてましたね。

松尾 昔を懐かしんで訪ねて来られたのでしようけど、その頃の大家さんと下宿人の関係は、今よりずっと濃密だったんじゃないかな。

宮地 そういえば、「最近の学生さんは、こちらから話しかけない」と会話にならないって長谷川さんが嘆いていた。

小林 厚生課で聞くと、「こういいた下宿屋を紹介するのは年間百件くらいに減ってきているそうです。

宮崎 結構残っているもんだなあ。  
 久保 京都の中心部に住もつと思つたら、マンションは高いからやはり下宿屋になつてしまつてますよ。

土佐 われわれB班は、学生と先生の関係について調べました。新島襄は同志社設立にあつて徳育教育を標榜。米国のアーモストト大学を模範としたわけですが、現実にはアーモストト大学は千六百人規模。一方、同志社大学は二万人を超える学生がいるわけですから物理的に乖離してしまつています。



松尾 私のいる商学部の場合にはゼミの先生に血の通つた交流をしていたらいい。研究室に勝手に上がり込んでお茶なんかこちそうになつたりして。

刈屋 工学部はレポートがあるから、研究室に入って先生に見てもらっています。  
 久保 オフィスアワーなんかを設けているところを見ると法学部もマン・ツーマンの交流の必要性は認めているんじゃないかな。

土佐 しかし、寄宿学校からスタートした意義を考えると今のような授業の形態はちょっと違うんじゃないかな。

宮崎 講義のあと、質問のある人は個人的に聞きに来てくださるって先生は言つて、先生にそんな時間的な余裕はなさそうだし、ちょっと聞きに行ける雰囲気じゃないよね。

小林 大学のマスプロ化は、戦後から始まつただけで、二十年、三十年前の学生たちはどうだったんだろう。

宮地 先輩たちは、違つたんだと思います。先程の下宿屋の大家さんの話じゃないけど、自ら進んで話し掛けようとする現代の学生気質が、先生との関係を疎遠にしている面もあるような気がしますね。

白浜 われわれは先輩たちから先生との距離のとり方を学んでこなかったわけだ。

久保 そつじう意味で、班が調べた京田辺校地はどうでしょう。いわゆる同志社らしさはあまり感じられないし、新島の創立精神を意識させるものは良心碑くらいしか思いつかない。

土佐 でも新島が模範とした米国の大学のキャンパス風景を思わせるという意味では、新島の意思が窺えるキャンパスですよ。

刈屋 ラーネット記念図書館を中心に校舎が建ち並ぶあの光景ですね。

白浜 今出川校地も最初は、そうした構想があつたそうですよ。いかにせん校地が狭くて実現しなかつたけれど。

久保 新島は、大学が完成するには二百年かかると言つたそうですね。

刈屋 その新島が同志社大学の現状を見たら、どんな感想を抱くでしょうね。

土佐 施設の充実が喜ぶでしょうが、教室に足を運ぶと、これは違つと思うかもしれない。ただ教育は国家の近代化に不可欠なものと考えていたから、マスプロ教育を完全に否定しないと思います。

小林 われわれが調べた戦後数十年だけでも、同志社らしさが相当希薄化していることを実感しました。そつじう意味で、今回の調査は新島の教育観についてあらためて考え直してみたい機会になりましたね。

# 伝統を受け継ぐ 若き京指物師に聞く



マフ 茶道の道具を作るといってお仕事柄、茶道も習っていらっしゃるそうですね。

一瀬 仕事でおつき合いですけど、習っているのは三千家その他ですが、茶道は表千家を習っています。

マフ 表千家と裏千家では、やはり道具も違ってくるのですか？

一瀬 茶道具に関しては、千利休の時代にはほぼ固まっているので形や寸法など基本的には同じです。ただ家元の趣味と口味的の違いによって、デザインのお好みが変わってきますね。

マフ 一瀬さんが、指物師のお仕事を始めたのはいつ頃ですか？

一瀬 大学に入ってから間もなく茶道は習い始めましたが、指物については父の手伝いを多少やった程度でした。その頃はまだ、家業を継ぐかどうか決めかねていました。

マフ 大学では何を専攻されたのですか？

一瀬 経済学です。

マフ 指物とは、あまり関係ないように思えますが。

一瀬 経済学部と聞けばそういう印象をお受けになるかもしれませんが、ゼミでは京都の伝統職人の近代までの変遷を、とくに経済的側面から勉強しました。だから、まったく関係なかったわけではありませんし、家業とのかかわりの中で京都の伝統を受け継ぐ職人の世界を勉強していくうちに、指物師の道を選んでみよう。その理由のひとつは、自分で物を作るのが好きだったこと、もうひとつは、伝統の職人の世界を学ぶことにより、別の角度から家業を考えることができるのではないかと。

マフ 家業を継がないという選択肢もあったのでしょうか？

一瀬 私の父は、自分の進む道は自分で決めなさいという考え方をしていましたので、いろんな選択肢はあったのだと思います。実は高校生の頃までは家業を継ぐのは嫌でした。何かとても狭い世界で生きていかなければいけないような気がしていましたね。しかし、茶道を習い、京の伝統職人について勉強す



一瀬 直和さん

【1995年経済学部卒業】

同志社香里高校から同志社大学経済学部に進む。大学では、西村卓ゼミで、京の職人史について学び、家業を素材に職人の近代までの経済的な成長立ちを研究。一方、入学と同時に茶道を習い始め、指物師の道に進むことを決意。現在、父・五代目一瀬小兵衛と共に茶道具の製作に励む。

るうちに、歴史の重みを肯定的に考えるようになりまし。茶道の道具を作り始めて父で五代目ですが、さらにその祖先は神社の調度品などを作る指物師でしたようです。

マフ そんなに古い家業を受け継ぐというのはとてもブレイクシャワーがかかっていますね。

一瀬 そうですね、父や先祖が築いてきた信頼を損なわないようにしなければという意識がとても強く働きますね。私も一度就職して、社会をもう少し知ってから家業を...と考えるでもなかつたのですが、一人前の職人になるには長い年月を要するので、早く始めるに決めたことはありません。それで卒業後すぐ父について勉強を始めました。

マフ 指物師として一人前と呼ばれるようになるにはどのくらいかかるのですか？

一瀬 そのお話に移る前に少し作品をご覧くださいませ。茶道具は、必ずこのように木箱に入っています。この箱が作れば、あとは何でもできるというくらい箱作りが指物の基本なんです。肝心の箱の中に入っているものを組み立てますと、このように櫛がで上がりります。これは四方櫛と呼ばれるもので、寸法はすべて決まっています。板が反ったり、ひび割れたりしてはいけないので丸太の状態で作入れ、よく乾かしてあります。問題はこの木目で、材木を挽いたとき現われる木目によって、何に使うかをあらかじめ決めておきます。茶道指物は木目を生かしたものが多いいのですが、「ちりちり」のように塗りをほごしたのものもあります。これは木目が見えていますから、私たち指物師の領分ですが、これ以上塗る場合は塗り師の仕事になります。このように切ったり、削ったり、彫ったり

する技術のほかにも覚えなければいけないことがいっぱいあります。ですから、何をもちて一人前とするかは難しいところですね。私はこの道に進んで五年。自分ではまだとても一人前とは言えない。

マフ ポーランドにも陶芸やガラス工芸など、伝統の工芸技術がありますが、家業として細々と受け継がれていて、若い人は職人になるより、都会に出て技術者になりたがりますね。

一瀬 日本の伝統を受け継ぐ職人も、事情は同じで、後継者問題に悩まされています。こうした伝統職人の世界は、一般的な経済システムで考えるとなかなかうまくいかない。先程見ていただいた櫛でも、茶道をやっている方ならそれなりの評価をいただけるでしょうが、茶道に関心のない方の目にはこの値上げはやはり高過ぎるということになるのでしょうか。

マフ 日本は先進工業国でありながら伝統的な工芸技術も大切に継承されている。それは素晴らしいことです。

一瀬 茶道という文化に支えられているから私たち指物師も生計が成り立っています。現在、京都に指物師が何人いるのか私は存じませんが、そんなに多くないことだけは確かでしょう。幸い私たちは、作ったものが使われる茶席というものが残っているからいいのですが、使われる場所を失ったらいくら何百年の伝統を受け継いだ技術でも減っていくかざるを得ません。ますます生活が様式化するなか、伝統だけにたよっているのは心細い限りです。その意味では、茶道や華道のみならずが世界に向けて積極的に普及活動をされているのは心強いですね。

マフ 私も少しですが、ワルシャワで裏千家の茶道を習っていました。静かで、趣があつて、とても素敵です。それにお茶を習って



## INTERVIEW 伝統を受け継ぐ若き京指物師に聞く



る人としてすぐに分かりますね。身振り、手振りに無駄がありませんから。

一瀬 習っていない人にとつて、茶道は何か堅苦しいイメージとつきにくいのものようです。逆に、先入観のない外国の方のほうから素直に受け入れられるようです。だから、最近ではフジさんのように外国の方が、かろうじて日本人よりも詳しくたりします。

マフ 数百年も前から同じ作法でお茶を飲んでるのだと思うと不思議な気がします。一瀬 茶道員についても同じことが言えるかもしれませんね。先程言いましたように茶道指物といえば、高さ何尺何寸と決められていて、指物師は寸分違わずそれを作っています。じゃあ、自分を表現する場がないじゃないかと思われるかもしれませんが、木目の選び方など、必ず作風は出てくるものなのです。

マフ お茶の作法と似ているんですね。ところで、作業場を見せていただきましたが、一日あそこに座っていると疲れますね。一瀬 毎日、一日中座って作業をしているわけではありません。家元を訪ねるときもありませんし、お茶席のお手伝いをするごときもあります。しかし、仕事が何分細かいものですから、ときどき遠くを見たくくなります。そんなときは山登りに出かけます。視線を遠くに運び、遙か彼方の峰々を見ているととても気持ちよくて、新しい作品に取り組み意欲が湧いてきます。

マフ いい趣味ですね。

一瀬 マフさんは、何か趣味をお持ちですか？マフ 日本に来てまだひと月くらいですが、今一所懸命お寺を回っています。この前、新町キャンパスの近くのお寺に行ってきました。

そこにはやはり小さなお茶室がありました。中国から伝わった茶道が、どのように日本で確立されたのかわたしへん興味がありますね。最後になりましたが、一瀬さんの今後の抱負をお聞かせください。

一瀬 まず、一瀬小兵衛の暖簾に恥じない作品を作っていくことです。五代目の師匠とともに仕事をしているので、目標がはつきりしています。ただ六代目を継ぐというだけではなく、何か自分の個性をプラスしていきたいですね。そして後世、これが六代目一瀬小兵衛の作品だといわれるような仕事を残したい。また、その一方で、指物はあくまでお茶席で使われてこそ道具としての価値があるわけですから、茶道の勉強もしていきたいといけません。職人の技というものは、一朝一夕に習得できるものではないので、焦らず頑張っていきます。

マフ 私は茶道が大好きです。でもワルシャワですと、本物の茶室がありませんし、こんな立派な茶道具もありません。私たちが外国の茶道の愛好家も、伝統的な日本のように恵まれた環境で御点前ができるようになればうれしいと思います。



## INTERVIEWER

### ウルシュラ・マフさん

【留学生別科】  
ワルシャワ大学在学中

ポーランド生まれ、ワルシャワ大学で日本語を専攻。日本の歴史、文学、宗教について学び、4年次（ポーランドの大学は5年制）修了とともに本学に留学する。日本の仏教美術について強い関心を抱き、将来は日本とポーランドの交流に役立つような仕事に就きたいと語る。日本語のほか、英語、スペイン語も堪能。



## 大好きな日本の伝統文化を支えようという若い力に共感します。

私は、世界の異文化にふれるのが大好きです。とくに日本の文化は、仏教にしても、茶道にしても、中国から伝わったものを独特のスタイルで様式化していて、面白いと思います。そうした歴史に育まれた文化が、近代の恵まれた物質文明の中で、だんだん日常と縁遠いものになっているのは寂しい気がしていましたが、一瀬さんのようにサラリーマンの道を選ばず、伝統の継承者として生きていこうとされている方に出会ってとてもうれしく思いました。これからは茶道など日本のことを教えていただきたいと思っています。また、仏教美術に関心を抱き、これから多くの寺院を回って勉強してみたいと思っています。私は、お寺の仏像や調度、さらにはお寺そのものも職人と呼ばれる人たちによって造られ、支えられているのだという意識は大切だと思っています。大好きな日本の伝統文化を後世に伝えるためにも、一瀬さんの今後の活躍を期待しています。

# CAMPUS NEWS

キャンパス・ニュース

## ホームカミングデー & ウィーク開催



十一月一日〜三日、同志社ホームカミングデー&ウィークが創立百二十五周年記念行事の一環として行われた。十一月三日は特にホームカミングデーとして、今出川キャンパスを中心に多彩な行事が行われ、三、五、人以上の卒業生が参加し、おおいに盛り上がりを見せた。栄光館では午前、午後の一回に分け、記念卒業式が行われ、卒業式が中止になった七十年、七十二年、七十五年卒業生のうち申し込みがあつた約一、一人が参加した。また、木村政雄 吉本興業常務取締役を迎えて記念講演会が行われ好評を博した。その他にも講演会や写真展、各種展示、キャンパスツアー、クラス会などが開催され、屋外にはオープンテラスが設けられ随所に卒業生たちの談笑する光景が見られた。なかには懐かしい角帽を



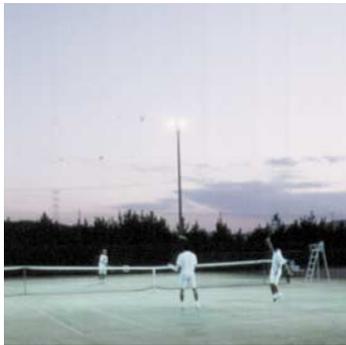
被り応援団の演奏に見入る姿も見られ、ひとときのタイムスリップを満喫した様子だった。

また、京田辺キャンパスでは期間を通じてキャンパスツアーなどが行われ、約一五 人の参加者があつた。

## テニスコートに夜間照明

京田辺キャンパスには十二面のテニスコートがあり、このうち四面のコートに夜間照明が設置された。これに伴い使用時間が二十一時までになり、利用者枠も拡大し、テニスコートの有効利用が図られる。

使用を希望する団体は学生課(京田辺)で利用登録をして下さい。



## 津軽三味線奏者 吉田兄弟を迎えての アッセンブリーアワー



十月十三日、京田辺校地多目的ホールで吉田兄弟を招いてのアッセンブリーアワーが開催された。

吉田良一郎、健一兄弟は一九七七年、七九年生まれ、五歳から三味線をはじめ、これまでに津軽三味線全国大会に何度も入賞を果たしている期待の新星。九五年に、吉田兄弟として演奏活動を始めてからは現代の若者らしい容姿と伝統の継承というギャップが新鮮な驚きを生み、現在マスマミにも引張りだこである。

昨年十一月に発売されたアルバムは半年で四万枚を売り上げるなど三味線の世界に若い客層を取り戻していることもあって、当日、会場は用意した座席数を大幅に上回る立見の学生であふれかえる盛況ぶり。一時間のプログラムの前半には三味線のダイナミックで迫力ある演奏に聞き入った。後半に行われた二人のトークでは、等身大の彼らの姿に学生からの質問も活発に行われた。

## 2000年同志社の クリスマス

クリスマスの恒例行事として、同志社関係者のもとより一般市民にも親しまれている、クリスマス燭火讃美礼拝、全同志社クリスマスキャンドルライト・サービス、全同志社メシア演奏会、今年も様々な趣向で行われます。クリスマスを祝うひとときをお過ごしください。



第11回クリスマス燭火讃美礼拝 Christmas in Kyotanabe Campus	全同志社クリスマス キャンドルライト・サービス	第36回全同志社メシア演奏会 (戦前からは通算49回目)
出演 同志社学生聖歌隊、同志社女子大学聖歌隊、同志社大学ハンドベルクワイア、京田辺市民合唱団、田辺少年少女合唱団コスモス	出演 同志社女子中高、同志社高校、同志社中学、大学聖歌隊、同志社大学ハンドベルクワイア	出演 同志社交響楽団、同志社グリークラブ、同志社女子大学メシア研究会ほか
入場料 無料 [要入場整理券] (キリスト教文化センター、京田辺事務室、学生課、教務課、学術情報センターにて配布)	入場料 無料 [要入場整理券] (両校地のキリスト教文化センターにて配布)	指揮者 佐藤功太郎
日時 12月8日(金) 18時30分開演	日時 12月22日(金) 18時開演(17時30分開演)	ソリスト Soprano 日紫喜恵美 Alto 栗林朋子 Tenor 金谷良三 Bass 瀬井 誠
会場 新島記念講堂(京田辺校地)	会場 同志社女子大学栄光館(今出川校地)	入場料 ¥1,500(当日16:30より座席交換、当日券あり) <前売:同志社大学生協、京都十字屋、京都コンサートホール、チケットぴあで発売>
問合せ先 キリスト教文化センター TEL.0774-65-7370	問合せ先 同志社女子大学宗教部 TEL.075-251-4141	日時 12月24日(日) 18時開演(17時開演)
		会場 京都コンサートホール大ホール
		問合せ先 同志社交響楽団、同志社グリークラブBOX TEL.075-251-3185(呼)

## 今出川キャンパスに クリスマスツリーが デビューします



イルミネーション設置予定のヒマヤカ杉

創立百二十五周年の今年、大学の今出川キャンパスにクリスマスツリーが登場します。そこで、みなさんとともに点火式を行いたいと思います。ぜひお集まりください。

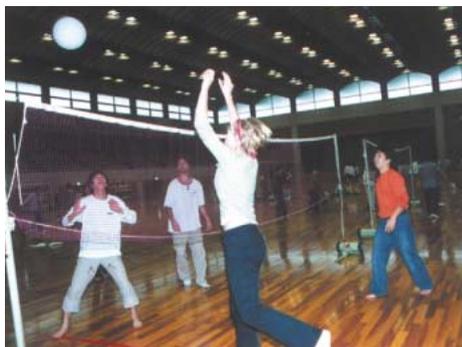
### クリスマスイルミネーション点火式

日時：十二月五日(火) 十六時四十分～十七時十分  
雨天の場合中止します  
場所：西門から入った中学校前のヒマヤカ杉のまわり  
内容：お祈りと讃美歌合唱  
なお、点火時間は毎日十六時三十分～二十二時三十分です。(十二月二十五日まで)

## 在学生キャンパス ツアー開催

在学生にもっとキャンパスを知ってもらおうという目的で京田辺および今出川両校地でキャンパスツアーが開催された。

京田辺キャンパスでは十月二十八日に京田辺キャンパスを知る機会の少ない留学生との交流を目玉にしたツアーが行われた。留学生別科から九人、AKPから九人、在学生からは十九人の応募者があった。当日は、あいにく天候が悪かったが、学生ガイド代表による歓迎スピーチ、京田辺キャンパスの概要説明などに続き、グループ別にわかれて見学に出発。簡城宮伝承地から歴史資料館、工字部棟・排水処理施設、下司古墳群など古代史から現代の最新環境設備まで多彩なコースをめぐる。ゴール地点は、デイヴィス記念館



メインアリーナのコートでハチームにわかれて競技したソフトバレーボールは、留学生をまじえて歓声が続かない楽しいひと時となった。最後は、紫苑館教職員ラウンジで表彰式をかねた簡単な交流会を開催し、すっきり打ち解けた雰囲気の中で留学生と在学生との交流が深められた。

一方、今出川キャンパスでは十月二十五日に重要文化財となっている校舎を中心に説明するツアーを開催し、十六人が参加した。学長室の開放や隠れた名所、七不思議など、普段あまり足をはこぶことがない場所や知られざるキャンパスの一面を見てもらうことにより、あらためて自分が通っている大学の歴史を実感してもらった。



## お詫びと訂正

本誌NO.124に誤りがありました。お詫びをして、訂正をいたします。

6頁 写真のキャプション  
×誤「昭和35年頃」  
正「昭和28年頃」

7頁 写真のキャプション  
×誤「昭和35年頃」  
正「昭和45年頃」

郡駕セミ韓国研修旅行

井川沙織さん・白木伸枝さん

〔経済学部〕三年次生

私連、郡駕セミ(政策・経営)コース三年次生は、九月五日(土)七日に韓国へ行き、春川というところにある江原大学で、失われた十年とその要因をテーマとした英語でのプレゼンテーションと韓国の学生との交流をしました。韓国側のプレゼンテーションのテーマは「M/F 韓国経済危機」と韓国経済の現状。郡駕先生と江原大学の具先生が旧友であるというので、郡駕先生が韓国の大学と交流をしてみないか?とあしゅっ



たのが去年の十二月のことでした。それから少しずつ準備を進めていき、今回の研修旅行が実現しました。初めは江原大学の学生とEメールで日程や内容、プレゼンテーションのテーマなどをやりとりしました。そして夏休みにはいつてからは、この研修に参加するゼミ生全員で何度も集まり論文を完成させ、韓国へ行くことが出来たのです。英語での発表はほとんどのゼミ生が初めてのことで、自分たちの英語力に自信もなくとも緊張しましたが、なんとか終わることができました。私連は今回の研修旅行を通していろいろなことを感じました。日本での準備段階においては、経済分析の難しさを前に何度も行き詰まりましたが、改めて経済学を学ぶことへの興味と意欲を持ちました。韓国では、韓国入学生生の学習意欲の高さに刺激を受け、「コミュニケーション手段としての英語力の必要性を痛感しました。そして何より、仲間と共に

2000年度資格試験など合格ランキング

司法試験 最終合格者  
大学別ランキング(ベスト10)

順位	大学名	合格者数	前年度合格者数	合格率(%)	前年順位
1	東京	198	229	7.5%	1
2	早稲田	140	139	3.0%	2
3	慶應義塾	116	95	4.9%	4
4	京都	108	112	7.6%	3
5	中央	102	92	2.2%	5
6	一橋	41	46	6.2%	6
7	同志社	31	25	2.9%	9
8	大阪	29	28	5.1%	7
9	東北	18	12	3.4%	14
10	上智	17	26	3.3%	8
	明治	17	21	0.9%	10
	名古屋	17	8	4.7%	19
合	計	834	833	3.9%	

公認会計士  
第2次試験合格者数(ベスト10)

順位	大学名	合格者数
1	慶應義塾	132
2	早稲田	90
3	中央	60
4	東京	50
5	同志社	37
6	一橋	35
	明治	35
8	京都	28
9	神戸	27
10	法政	23
	関西学院	23

不動産鑑定士  
合格者数(ベスト10)

順位	大学名	合格者数	前年合格者数
1	慶應義塾	29	29
2	早稲田	28	34
3	明治	24	15
4	同志社	18	9
5	関西	14	6
6	中央	13	18
7	東大	11	11
8	法政	9	6
	関西学院	9	11
	神戸	9	6

シドニーオリンピックで活躍した同志社人



宮本恒靖さん 経済学部四年次生  
サッカー日本代表



朝原宣治さん 九五年商学部卒業  
陸上男子四〇メートルリレー六位



杉浦正則さん 九一年商学部卒業  
日本選手団主将  
野球日本代表

協力してひとつの論文を作り上げ、発表を終えた時の達成感は今までの大学生活の中で一番大きなものでした。私連は今回の経験を活かしこれからもゼミの活動を頑張っていこうと思います。最後にこのような研修の機会を与えてくださった郡駕先生、そしていつも私連を助けてくださり、いろいろなアドバイスをしてくださった院生の方々に心から感謝します。

本学教員の新聞

(学術情報センター調べ)

グローバル経済のゆくえ

嶋田巧 編 八千代出版 二、九〇〇円

新版 刑法講義総論

大谷賢 成文堂 四、〇〇〇円

エッセンシャル政治学

梅津賢 富沢克 編 西澤田隆 真山達志 新川達郎 橋本卓 鷲江勝隆 ほか著 成文堂 二、三〇〇円

知の座標軸

シリーズ近代日本の知 第1巻 藤田正勝 編 田端信廣 執筆 晃洋書房 三、五〇〇円

宮澤浩一先生古稀祝賀論文集

第1巻 犯罪被害者論の新動向 宮澤浩一先生古稀祝賀論文集編集委員会編 潮川晃 執筆 成文堂 一、〇〇〇円

宮澤浩一先生古稀祝賀論文集

第2巻 刑法理論の現代的展開 宮澤浩一先生古稀祝賀論文集編集委員会編 上田健一 執筆 成文堂 一、〇〇〇円

宮澤浩一先生古稀祝賀論文集

第3巻 現代社会と刑事法 宮澤浩一先生古稀祝賀論文集編集委員会編 大谷賢 執筆 成文堂 一、〇〇〇円

なぜ核はなくなるらないのか

核兵器と国際関係 山田浩編 村田晃嗣 執筆 法律文化社 二、八〇〇円

エキサイティング刑法 各論

大谷賢 ほか著 有斐閣 二、八〇〇円



AT/ Program

Act Together  
Program

# ゼミでもなく、サークルでもない、 学生課主催の課外プログラム



りやすい。

では、実際のプログラムはどのようなものだったのか？詳細は別掲のとおりだが、四万十川のプログラムでは、廃校となった小学校を再利用し、環境教育を目的として設立された(社)四万十楽舎を受け入れ先として、宿泊はもちろん、カヌー、イカダ、コロボシの手長工(じ)を獲る仕掛け)などの現地プログラムの提供を受けた。コーディネーターの大西秀次郎さんは、北極探検隊のサポーターのため約四万月を北極点で過ごしたという冒険家で、四万

学生課主催のツアー型課外プログラムといえば、二十年の歴史をもつ「函館キャンプ」が有名だが、今年度「函キャン」に加えて、Act Together Program (通称@、アウトプログラム)を発足させた。さうそう、今夏、リバーアドベンチャー@四万十川と@無人島の2つのプログラムが実施されたが、三百人を超える応募者を集めた@とは、いったいどのようなものなのか、参加者の声を交えながら紹介してみよう。

十川を知り尽くしたアウトドアのプロフェッショナルだ。プログラムでは、カヌーによるツリングをメインに据えていたが、実は意外と好評だったのがイカダ組み、自ら組み上げたイカダを浮かべると、いやが上にもトムソーヤ的な冒険心が膨らんでいく。また、ライフジャケットを着用して沈下橋から飛び込むライフイシャケ・ダイブも心の底から童心にかえって楽しめるプログラムだ。

「ゼミだと学部・同年代だし、サークルだとけっこう拘束とか上下関係があるから、学部、学年を超えて対等な人間関係って、なんか新鮮な感じ」。ある参加者は@の雰囲気

一方、岡山県黒島で実施された無人島キャンプは、「無人島」という言葉の響きに惹かれてか二百人以上の応募者を集めた。四万十川とは趣きをかえ、文字どおり手作りのアウトドアプログラムが実施された。無人島だと思っ行ってみたら人が住んでいた、というおまけもついた。

参加者の声を拾ってみると、ホンモノの川を知り川遊びの面白さを知った、五感を通して自然を身体全体で感じる事ができた、(経三男)「いかだ、カヌー、ライフジャケットと初めての経験ばかり、ゆくり時が過ぎてほしいと思っった(法一女)、小学校以来の楽しみのんびりした夏休み(商一女)、大学生の団体行動すこく新鮮で満喫できた(工一女)、いろんな学年と知り合え同志社大生としての大学生活に期待が持てるようになった(法一女)、大学の教育システムに対する疑問があったが@には別次元の価値体系がある(院総二)

人と人の繋がりというものは、共有する時間の長さだけでなく、アウトドアでの活動など一定の高揚感の中で連鎖的に繋がっていくものだという点を参加者は実感している。

ところで、今なぜ、このような活動が注目され始めたのか、九八年に日本私立大学連盟

リバーアドベンチャー@四万十川スケジュール

8月7日(月)	8月8日(火)	8月9日(水)	8月10日(木)
	6:30 高知港着 7:00 バス出発		
	11:00 四万十美食会 オリエンテーション 昼食(各自)	9:00 防災・機器 トレーニング ライジャグタイ 昼食	9:00 ライフゲース 朝食
	13:00 いかだ組み	13:00 黒尊川 シュノーケリング 釣り	13:00 解散
	18:00 夕食	18:00 日向ぼっこ ハーベキュー コロパシ仕掛	
21:20 大阪南港出港 船中泊	四万十美食泊	四万十美食泊	

@無人島スケジュール

9月20日(水)	9月21日(木)	9月22日(金)
今出川校地 集合・出発	起床 朝食準備・朝食・朝食片付け 島内散策・カヌー	起床 朝食準備・朝食・朝食片付け 撮収・ボランティア作業 黒島より平窓港へ帰港
平窓到着 昼食(各自) 平窓港より渡し船で黒島へ	昼食(準備・片付け) カヌー	昼食 地引網体験
食事準備・食事・片付け キャンプファイヤー・花火 テント泊	食事準備・食事・片付け 肝試し・キャンプファイヤー テント泊	鶏鍋沼温泉で入浴 JR京都駅到着・解散

スノー・アドベンチャー@信州  
セルフディスカバリースケジュール(予定)

【日程】 2001年3月10日(土)~3月14日(水)  
(4泊5日 ただし車中泊1泊・現地解散)

10(土)	京都駅21時集合(夜行「きたくに」)	車中泊
11(日)	現地(大系線平岩駅)着後、OBSで仮眠、オリテ、仲間づくりゲーム、雪上基礎講習、救助法、カンジキトレーニング	OBS泊
12(月)	梅池スキー場で、バックカントリー・ツアー 雪滑りづくり、雪上アウトドア・ウッキング、神の田圃(標高2,000m)	雪洞泊
13(火)	バックカントリー・ツアー(天狗原標高2,200mからの滑降) 温泉入浴、夕食パーティ、シェアリング	OBS泊
14(水)	クロスカントリー・スキー(5km)シェアリング 平岩駅14時解散	



五段階評価の満足度調査・ハポイントとほぼ全員が、大変満足」と評価したこのプログラム

様々な体験を通じて、教職員とともにある課題に取り組み、そのプロセスを通じて、先生を知り、友人を得るといった体験を、大学が提供していく。それは大学が行う課外プログラムの焦点が、学生個々人の成長にシフトし始めたという証でもある。

が実施した学生生活実態調査によると、学生生活には、学問的な意味での満足因子」と「人間関係による満足因子」との二つの潜在因子があり、特に「人間とのかかわり」が大学生活の充実に大きな影響を与えていることが分かってきている。たとえば、優秀な教授陣「だけでは不十分でその先生と親しくなれた時」「遊べる時間やクラブ活動」だけでは不十分で他人と協力して何かを達成した時、初めて学生生活が充実していると感じるといふ。また、アウトドア先進国米国では、大学内に所管部署を設け、学生・教職員向けにアウトドア・プログラムを提供しているのが一般的だ。

問い合せが学生課に寄せられている。今年度

すでに、次の@はいつやるのですかという

川遊びを、あるいは、日常あるべきものが何



方々の参加者も募集している。

@プログラムは次年度も実施する予定である。今年度はア

最後の@は別掲のとおり、「癒し」系の夏のプログラムとは趣

# 就職活動Q&A

今年の四年次生に対する企業の採用活動は、一部を除いて、ほぼ終了しつつあります。

これから就職活動を行おうとしている3年生の皆さんは、インターネットや就職情報誌などによる膨大な企業情報を、どのように整理すればよいのか戸惑っておられるのではないのでしょうか。あるいは、各社のエントリー・シートの見本などを眺めながら、「自己分析」をどう進めたらいいか悩んでおられるかもしれません。

今号ではO&A形式で、この時期、特に学生の皆さんから多く寄せられる質問に答えました。O&Aにはいる前に、今年度の就職戦線の概要・特徴をふりかえっておきましょう。

一〇〇〇年度の就職環境は、超々氷河期といわれた前年度にくらべ、一丁開運を中心にやや好転しました。しかし、求人倍率は一・〇九倍(文系)・〇・九〇倍(理系)・一・四二倍という低い水準で、依然として就職難であることに変わりはありません。今年度の特徴としては、次の三点があげられます。

## 厳選採用

倒産、合併、提携が相次いだ経済状態のもと、どの業界においても余剰人員の整理や採用手控えがみられました。員数合わせの採用は姿を消し、将来の基幹社員になれるような、意欲のある優秀な人材を確保したいという企業が大半でした。

## 早期化

世界的な外資企業は三月中旬、国内の大手都市銀行などの総合職は前年より約三週間早く、四月第一週に内定を出しました。メーカー等の大企業の内定も約一週間早くなりましたので、結果的に内定のピークは五月中旬といつていいようになります。

した。一般職も総合職に比例して早期化しました。多様化、IT化

## 多様化、IT化

採用手法が多様化しました。インターネットの利用は、会社情報・採用情報発信・受信のためのツールから、採用そのもののツールとして定着しつつあります。セミナー・ネットリーの初期段階から、適性テスト、選考試験の管理、合否連絡、内定管理までの作業を、すべてネット上で行う企業が多くなりつつあります。

このような流れは、さらに二〇〇一年度も拡大していくことでしょう。



就職難が続いている中で、同志社の学生にも二極化がみられるようになりまし。早々と内定を勝ち取る学生と、なかなか内定がとれない学生です。就職は、理屈で説明がつく試験の点数とちがって、時には不条理なことでも、否、そこを要する場合があります。しかし以下にのべるようないくつかのポイントを、活動前から念頭に置いて活動してきた皆さんは、比較的早い時期に内定を得ています。

たとえば飛びぬけた特別の能力を持たないのに、早々と内定を獲得する学生がいます。そういう学生の特徴は、よく学びよく遊ぶにたがって、人間力を蓄えることができていることです。人間力とは、ひとを思いやる力、他者との「コミュニケーション」力、社会の出来事に対する好奇心、明るさなどで構成される。そのひとの人格、人間の

魅力です。入学当初から、友人も持たず、クラブ活動もせず、目的意識も持たないで漠然と学生生活を送ってきたとしたら、その面で見劣りがし、内定から見放される可能性が大了。企業は、あなたが在学中にどんな生き方をしたか、どのようにものことに取り組んできたのかを見ようとしています。それは就職後、あなたがどのように仕事に取り組みかに結びついているからです。

あとのO&Aでもふれますが、今まで、何を考えて、どのように生きてきたのか自己分析・確立く。また、これからのような道を歩もうとするのか職業観の形成を今の時期によく考えてください。これらの分析が明確にできていて、自分の言葉で語ることで学生を企業は求めています。これらの作業は、三年次生のいまの時期からでも、決して遅くありません。じっくり取り組んでください。

それでは、O&Aにはいりましょう。

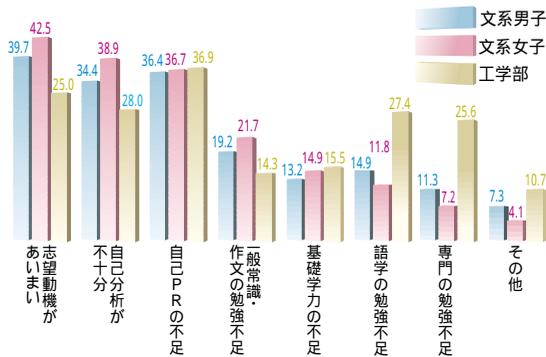
## Q①

よく、自己分析が必要だ、といわれます。先輩たちからも、自己分析ができていたから、面接で應ずることなく対応することができた、あるいは、自己分析が足りなかつたから、人事担当者の質問によく答えられなかつたなどの感想や反省を聞きました。自己分析は、具体的にどのようすればできるのでしょうか。

## A①

あなたは、自分とは何者かを考えたことがありますか？ 自分というものが判っていないと、あなたにとって大事なことを選択しなければならぬ時に、とつすればいかに迷つていくなりがちです。就職も人生の選択のひとつです。この機会に、ぜひ自分探しをしてみてください。自分の長所や短

面接・試験段階での反省点 (複数回答)



所はどこか。またそれはいついつとどのようして自分に定着したが、両親との関係はどのようだったが、対人関係をどのようにならしているか。人と交わるのは好きか、嫌いか、困難に遭遇したとき立ち向かう方が、逃げる方が。もし困難を克服した経験があるとするれば、どのようして克服したが、また、自分を他者がどう見ているか、友人や親・兄弟などに感想を述べたことがあるか。自分で観る自分と、他者が観る自分とは、必ずしも同じではありません。

以上、あなたが自分自身をどう認識するかに必要な作業です。それが終わったら、その自己認識と就職がどう関わるかを考えてください。それが就職活動に関わる、自己分析の大事なところなのです。

一般に人事面接では、自分の過去を洗いざらい話す必要はありません。企業が知りたいのは、あなたがどのような能力を持ち、どのような仕事をしたいと思っているかです。もっと極端に言えば、あなたが、使い物になるかどうかを知りたいのです。

たのです。ですからあなたは、少なくとも自分とはどんな仕事(職種)がしたいのか、どのような業界・企業で働きたいのか、現在だけでなく将来はどうしたいのか、自分の能力や適性はそれぞれに合致しているのか、なぜ他社ではなくその会社なのか、などを考えておく必要があります。

「ここでひとつ注意しておきたいことがあります。たとえばあなたが、ある特定の仕事をしたいと考えたとします。その仕事に対する適性や、能力があつて、そのための準備も十分に行っている場合、あなたは「志」を貫徹するつもりでしょう。しかし困るのは、「を」を「したい」といふ思いだけが先行して、実力が伴わない場合です。その職業に固執するあまり、就職から取り残される学生が毎年かなりいます。原因は自己分析不足です。男子学生では「テレビ」、新聞、広告代理店、女子では「出版」「テレビ」、英語を生かしたい、などの希望者にその傾向が多い。これらの仕事は競争倍率が高い上に、才能がすべて、ともいえる業界です。このような仕事が本当に自分にふさわしいのかどうかを考えるのも、自己分析です。自分をひとつの仕事に固定してしまうのではなく、いろいろな仕事を自分に当てはめてみてください。ひとは意外なところにも適性を持っているものです。ほかの仕事にも可能性が発見できれば、あなたの未来は確実に広がります。

自己分析に役に立ちそうな項目を三つほどあげておきます。ぜひ自分の整理をしてあげてください。

これまでどのような活動に力をいれてきたのか、何について努力してきたのか、たとえば大学の勉強やゼミなどで、どこに重点を置いて学んできたこと、またサークルや海外留学あるいはアルバイトなどの活動体験から何を学び、成長したのか。

自分はこのように自身の能力・適性を把握しているのか、たとえば集団の中でどのような役割が多かったのか、友人、先輩、アルバイト先の上司などから、どのような評価、期待をされるこ

とが多かったのか、積極性や協調性、他者に対する説得力・論理性やプレゼンテーション力についての程度向上させてきたか。

自分はこのからの人生設計をどのように考えているのか、たとえば、ライフプランのなかで、仕事をどのように位置付けているかと考えているのか、様々な価値観のなかで自分は何を優先して生きていきたいのか、何を求めたいのか、五年、十年後の自分はどのような仕事をしているのか、それらのイメージはどのようなものか、それを実現するためにどのような努力を行おうとしているのか。

事前にエントリーシートの提出を求めることが多くなっていますが、この目的は何ですか、企業はどのようなポイントに着目しているのでしょうか。またその項目のなかで、目標達成やリーダーシップ、また自己の価値観をいかに醸成したかなどについて自身の経験と関わりをもたせて語らせる設問が多く見られます。しかし自分には他の人間に語ったり誇れるような経験などありません。どうしたらよいのでしょうか。

エントリーシートを作成させるのもこの目的としては、なぜその企業を志望するのか、その企業に対して志望者の能力・才能がどのように貢献できるのか、その他志望者の認識している性格などについて記述させることにより、履歴書の記載内容を補充する参考資料とするところにあります。

かつて大学と企業の間には就職協定が締結されてきました。それが四年前に廃止され採用試験は自由応募が大勢をしめるようになりました。そうすると、著名企業などは「想像を絶するほど応募者が殺到します。中には、「冷やかしか」「記念受験」もあります。そこで企業は、本気で応募してくる者だけに絞り込む必要に迫られました。そこで開発されたのがエントリーシートだと

いうわけです。

エントリーシートは、就職協定期代のように履歴書を一枚書いておけばこの企業にも使えよというわけにはいきません。企業によって設問の内容も量も異なります。しかし大体の傾向はあります。なぜが社を受けるのかという質問はここにも共通しています。その企業の独自性を研究していないと書けません。コトバランシーとしてあなたの学生時代の「成果」を問う企業も多くなりました。大学時代に特に力を入れたこと。あるいはその会社で何をしようとしているのか、十年後にはどのような自分を作ろうとしているのかなどもよく聞かれるでしょう。もちろん、丁寧に書いてあるかどうか、あなたの仕事の仕方が類推されるでしょうし、学力や論理性も検査の対象です。要するに、エントリーシートは第一選考なのです。

「111」を参考までに、エントリーシートの典型的な項目をあげておきます。

学生時代に一番力をいれたことは何か、どのような活動をして、そこから何を学んだのか。

自分で認識している自己の強み・スキル・能力・性格を具体的に示す。

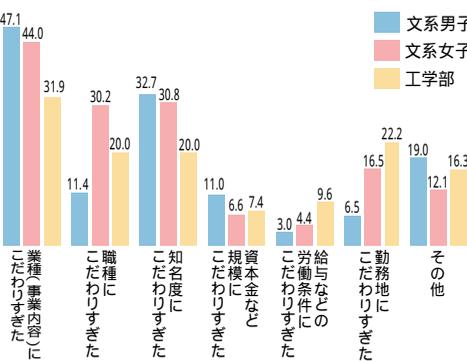
志望理由およびその企業で何をしたいのか。職業人としてのどのような将来を描いているのか。

これらの項目は前述した自己分析で行うべき内容と、ほとんども重なっていることに気づかれるでしょう。この二つとは、企業も学生の皆さんがどのような自身の特徴、性格などについて自覚的・論理的に把握できているかを知ろうとしているのです。

また、書くべき内容、詩のあるべき経験などがみつからないと「111」不安に感じている人は、おそらく「スポンジ」をはじめとする様々な世界で華々しい記録や成績をおぼたせたような経験を待たないひびきを除けば、ほとんどの皆さんは、同じような学生生活を送ってきたのだらうと思います。そこで重要なことは、それらの経験から何を感じた

のか、そこをどのような意味を見出したのかを自分の言葉で語るべきです。そのことによって「人柄」や「考え」が相手に伝わるのです。体験をことさらに際立たせようとして、飾り立てたり、誇張したりする必要はありません。

応募先選択段階での反省点（複数回答）



③ 企業研究はどのように進めればよいのでしょうか。その際、「良い企業」とはどのような企業を指すのでしょうか。

④ 企業、会社研究には様々な方法があります。情報収集と「111」ことでは、就職部の資料、企業の広報媒体、業界関係誌、会社四季報、などの会社情報誌、新聞などを読みながら切り抜きシートを作成する、そこから関心のある業界・企業についての詳細情報を集める、などが情報収集の作業の基本となります。

しかし本当の問題は、自分にとってどのような会社が「良い会社」であるのかを見極めることの難しさではないでしょうか。就職活動がいつたん落着く五月下旬頃、持ち直しがなくなった

「どのような会社を受けたら良いかわからない」などの相談で多くの学生が就職部を訪れます。このときにもっとも多い質問が、「良い会社は何なのでしょう？」と尋ねて探したらいいのですか？、というものです。「良い会社は何？」と自分自身がわかっているのか？、という問いの底には、自分に言いた、「良い会社とは何？」という一段深い問いかけが秘められており、おもええます。あらためて整理すれば、以下の3つの問いに尽きるのではないのでしょうか。

① どのような会社が「良い会社」なのか？  
② どのような会社が、自分に「向いている」のか？  
③ 自分に向いた、「良い会社」を、どのように「探し」たらよいのか？  
では、さきの問いについて、ひとつひとつ考えていきましょう。

① どのような会社が「良い会社」なのか？  
まず、皆さんがどのような会社を「良い」と考えているのか、なのです。それが何らかの客観的データにもとづいたものであるのか、あるいは皆さんが漠然と思い込んでいるのか、をまず考えてください。とくに「ありがちな」は「マンネリ」が横行する有名企業が「良い」会社であるという先入観なのです。

一般的にいえば、部上場、店頭公開、未上場の大手、親企業の資本参加状況など株式公開資本形態、経営利益、成長性を含むさまざまな観点から調べることにあつて、良い会社、たりえる有益な情報が得られるはずですが、別に大企業でなくても、いわゆる中堅企業でも将来性のある会社は実にたくさん存在します。

しかし、冒頭で述べた相談で来室する学生の多くのケースは、先のような方法で調べたうえで「この会社が良い」と判断したのではなく、たんに「思い込み」で会社を選んでいることも多いのです。この場合、たんに本人の企業のリサーチが足りない、というケースあるいは家族文化などによって形成された有名・大手企業信仰が原因となることが

- どの様な会社が自分に「向いているのか？」
1. もともと語学とはどのような仕事をしたいたイメージでいるのでしようか。
  2. もともと語学とは、どのような仕事に「適性があるか」と考えているのでしようか。
  3. そのように考える理由・根拠はどのようなものでしょうか。



「入社」など原因はいろいろあります。  
 リサーチが足りない場合は、上述の通り、様々な角度から企業状況をリサーチすればすむのですが、後者の場合、ぜひとも銘記してほしいのは、仕事をするのは自分自身であって家族ではない、またしてみたい仕事のイメージがあっても社を選ぶのであって会社入社後、してみたい仕事があられるのではない、ということです。会社名のみで自己満足できるのは入社当初だけです。本当の仕事・競争は入社後、実力本位でスタートするのです。

「Q10」の問いに、皆さんはこのように答えることができますか。  
 自分に問いかける、いくつかのポイントを書いております。

(1) もともとどのような仕事をしたいたイメージしていたのか。  
 入学時から今日まで(漠然とであれど)どのような仕事をしたいたと考えてきたのか、なぜその仕事をしたいたと思ってきたのでしようか。その思いをこれまでどのように具体化しようと努力してきたのでしようか。してみたい仕事をできる仕事にするためには、あなたなりの努力が必要です。

あなたはその仕事をするために必要な「技術」「知識」を蓄え、磨いてきましたか。  
 そのような努力ができていないとすれば、あなた自身がなぜその仕事ならでできる、してみたいと思っているのか、を自問すべきでしょう。逆にいえばあなたは、なぜその仕事以外はできない、やりたくないと思っているのですか。してみたい仕事をできる仕事にするための研鑽を積んでください。

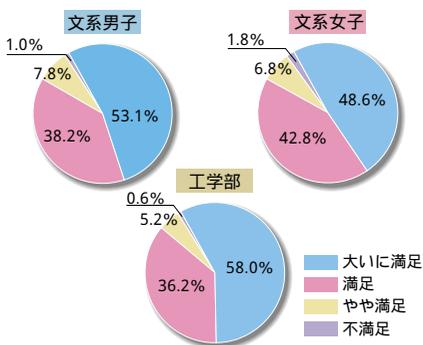
(2) もともとどのような仕事に適性があるかと考えていたのか。  
 あなたは適性をどのように認識しているのでしようか。適性には誰が発見するのでしようか。たとえば、適性検査の結果を鵜呑みにしていませんか。  
 先の設問でもふれましたが、「適性」は自分の自身で完全に発見できるものではありません。適性は、仕事についてはじめて職場の上司や同僚から発見されるということが多いです。自分に向くといいことを一方的に決めることはみずから可能性を自分で狭める結果になりません。適性はこれから自分で作る「というへらいの気概をもつて就職に臨んでください。」

資格をもつてほしいものがどのようなものでしょうか。

結論からいえば、就職にかがわりなくあなたらの資格を取得していただくことは悪いことではないでしょう。就職においても資格は邪魔になりません。しかし大事なことは、資格があるから採用に有利となるわけではないということです。企業では業務に必要な能力、資格は、内定後あるいは入社後に取得させることが多いのです。必要なことはあくまで仕事をする意欲・能力、チームワークリダーシップです。このような条件を満たしてなお資格があれば業界によっては大きな武器となることもあてはまらねばなりません。

英語など語学に堪能な皆さんながら、日常的に語学を使う仕事をしたい、という希望が多いのですが、これも語学が堪能であるということだけで即採用ということはありません。現在多くの企業が欧米・アジアなどの海外との取引を行うなかで、堪能な語学力は必須となりますし、本人にとっても将来のキャリアアップへの重要なファクターです。先にも述べたように、最後には語学力を含めた総合力がモノをいいう、ということをご留意に留めておいてください。

就職決定先の満足度



# 「企業行動の研究を通して 実社会」を考える。

企業行動について学ぶ竹廣ゼミ(三年次)は二年目に入り、また就職活動も控えて、企業を分析するゼミ生たちの議論も白熱してきた。竹廣先生が、この学年は、あえてテキストを定めず、企業のファイナンスや労働市場とのかかわりなど、自由なテーマで研究してもらっています」と語るように、当ゼミは自主性を重んじた発表と討論の場になっている。今回は、同じ経済学部的小林ゼミとの対抗ゼミの準備が進む中、幹事の野口さんを中心に集まっていたが、今まで学んできたことを総論的な観点から話し合ってもらった。



野口 私たちは、ゼミで一年間企業行動について学んできました。それまでの企業イメー  
ジは「マスマテア、あるいはアルバイトを通じて知る程度でした。しかし、ゼミで企業行動を具体的に検証してきたことで、企業観というものが大きく変わってきたと思うのですが、いかがでしょうか。

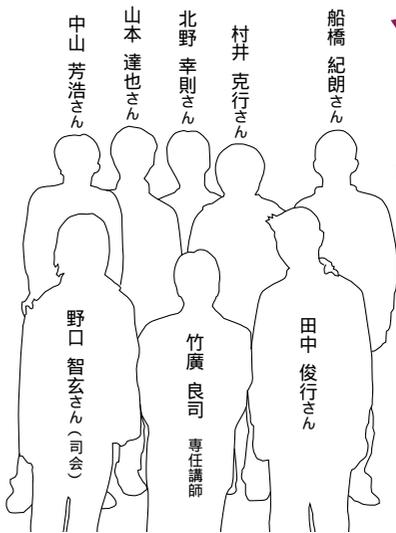
船橋 一年次、二年次でマクロ経済学やミクロ経済学を学んできましたが、あくまで基礎知識として学んできたわけで、おおざっぱに言ってしまうと、企業とは生産要素を投入すると製品となって出てくるそんな存在でした。そのメカニズムは依然ブラック・ボックスでしかなかった。しかし、ゼミで学んでいくうちに、企業というのが徐々に身近なものになりましたね。もちろん、学ぶ内容は複雑だけど、よりリアリティーが感じられて面白い。

中山 高校時代は新聞を読んでも、分からない単語に出くわしてよく意味が理解でき

経済学部  
「竹廣良司ゼミ」 三年次



竹廣 良司  
【経済学部専任講師】



なかつた。大学に入っても一年次生の間はまだ経済欄を読んでも、もう一つ意味が釈然としない。ようやくゼミで能動的に勉強するようになって、社会とか企業というものが分かるようになりましたね。

野口 私たちもやがて就職活動に入ります。以前なら、社会に出るのは何か大それたことだというイメージがあったし、企業は遠い存在だった。ところが、ゼミで企業行動をさまざまな角度から研究し、アルバイト先の社員の方とも親しく接してみると、何のことはない普通の人間たちの集まりだった笑。

山本 大学に入るときに、みんなはどう感じた? テキストは難しいし、原書を読まなければならぬとも聞いていた。果たして、自分についていけるのだろうか? と不安になりました。でも、実際に慣れてしまえばどうということはない。

村井 そういつことなんだろ? けど、僕の場



合は少し視点が違う。ゼミでいろんな角度から企業を分析したけれど、自分の中ではまだぼんやりしていた。ところが、この夏インターンシップを経験してはきりした。企業といえども、基本は人間対人間なんだ。営業の人たちも、商品や会社を売り込もうとするけれども、実は自分が信頼されて初めて商談に持ち込めることを知っている。だから、自分が信頼されるにはどうしたらいいかという発想のもとに、行動していることが分かった。

野口 クラブ活動もアルバイトも、このゼミもそうです。みんな人間関係を基本に成り立っていて、企業はその延長線上にある。

竹廣 そうですね。企業と同様、このゼミもひとつの組織として成り立っています。だからゼミでは、何かを研究していくことももちろん大切ですが、同時に組織の中で自分がなすべきことも学んで欲しい。ゼミの中で、たとえ一人でもぼんやりしているとゼミ全体の学習意欲も低下します。無断欠席に、マイナスイ五十点という高いペナルティを設けているのもそのあたりをみなさんに自覚して欲しいからなんです。

北野 班ごとに課題について必死で調べ、議論に臨むというのは、さしずめ企業内で事業

部ごとに競うことで企業全体の生産性を高めていくようなものですね。

野口 企業内のコンペティションを模擬体験しているようなものだ。

田中 僕はアルバイトでパソコンのインストラクターをやっています。中にはクリックというのがあります。中ではレベルのおぼあちゃんがいらしたりする。以前ならいらいらしていたところですが、今ではおぼあちゃんのおぼあちゃんに合わせられる。ついでにちゃっかり商品も売って入れておく余裕まで生まれた。それは何かというと、自分に与えられている使命が分かったからです。

山本 今までの議論は、企業を知り、それに適合していく話を中心でしたが、現実には、就職後二、三年で、三分の一の人が離職している。今や十人に一人がフリーターという数字もあります。そうした人は、苦勞して企業に入ったけれど何かギャップを感じて辞めていくのだと思う。そのギャップの原因はどこにあるのだろうか。

北野 やはり就職にあたっては、企業の行動傾向を知るべきだと思う。一流と言われる企業でも、自分が志向する行動傾向と合わない力が出せない。ブランドで就職先を決めるのではなく、自分に合った環境かどうか



かを見極める必要があると思う。

竹廣 以前に比べ雇用は流動化しており、たとえ大企業でも一旦入社すれば生涯雇用が約束される時代ではなくなりつつあります。これまで固定的で調整が困難だった雇用に関する費用負担を正社員を減らすことで回避し、派遣社員などで雇用をアウトソーシングするような企業も目立ち始めましたね。

村井 インターンシップで分かったんですが、社員の声を拾ってみると、自らの専門性を高めることに高い価値を見出している人が多く、よく聞いてみると、専門的な能力を高めておくと、もしも場合でも同業他社へ再就職しやすいからという答えが返ってきました。

田中 企業の中には実力主義にシフトするにつれ、福利厚生面への全体的な支出を抑える一方でやる気のある社員のスキルアップ支援にお金をかけるようなところもありますね。

竹廣 日本の企業の九十%は資本金三千万円以下の中小企業で占められています。日本の経済を考える上ではこうした中小企業が重要な役割を果たしていることを忘れてはいけません。多くの学生諸君は大企業を志向していますが、就職活動に臨むにあたって自分の能力を生かすにはという観点でしっかりと企業を見極めて欲しいですね。



# 成長のエネルギー

乳児の研究に専念するようになり、人間の成長に対するエネルギーをつくづく感じている。学生も乳児に接するうちに、七カ月と十一カ月の子どもは一目見て違いが分かるようになる。とっついてこのようになわすか間に違いが現れるのであろうか。ひとつには、この時期の四カ月が、われわれの年代の時間軸では何年分にもあたるからであらうか。しかしそれ以上に乳児の成長の凄まじさを感じる。

ヒアジエらの研究で最近明らかになってきたことは、乳児が自らの成長の担い手になっているということである。自分自身の能力をすべて使って環境に対応し、その過程で自分の能力を超えた問題にぶつかり、さらに進んだ段階へ展開していくのである。

例えば、七カ月児が寝台で横になつてるとき、天井から吊るしながら腕を組んで結んでやり、腕を振るとがらがらなることを教えるとき、一生懸命に腕を振りつづけながらの首を楽しんでいる。しかし、これは腕の動きと首の関係が理解できても、それが両者を結んだ紐の動きによることは理解できていない。したがって、反対の腕に紐を付け替えても振る腕を変えらることはない。しかし、一歳を過ぎると、子どもはひとり遊びも成長している。例えば、二階から一階にいるいるなおもちゃを投げ捨てて遊んでいる子



## 内山 伊知郎

【文学部助教授】

1956年愛知県生まれ。1980年同志社大学文学部卒業。1987年名古屋大学大学院教育学研究科博士課程後期課程教育心理学専攻単位取得退学。1994年同志社大学文学部に専任講師として入社。感情の発達、交通心理学などが専門分野。

は、投げるおもちゃや投げ方によって落ち方が異なることを実験するように確かめているのである。この時期には、何をすると何が起ころか確かめ、目的と手段の関係を一生懸命に学んでいるのである。乳児は疲れきるまで働きつづけ、疲れるとすぐに眠るといっ繰り返してある。わずかな間に成長を遂げる秘密は、この集中して取り組む姿勢にあるのではなからうか。

乳児に関心をもったのは、天文学者が宇宙の誕生に、歴史の研究者が人類や文化の始まりに関心を持つのと似ているかもしれない。幼い子どもを見て、人間がいかにエネルギーに満ちているのかを感じることができると。

先日、内定を得た学生の就職先の人事担当者が研究室に挨拶に訪ねられたことがあった。最近の学生気質が話題になったとき、

大学時代にアルバイト以外の何かに夢中になれるとよいですねと聞いておられた。面接でも勉強に打ち込んだという学生はめったにあられませんが、このことであつたアルバイトも立派な仕事であるが、消費のための活動であることが多い。これだけでは、充実していると言にくい。

大学生は、自分自身を見つめ、将来を考える大切な時期であるといわれる。また、社会人になってからは得がたい貴重な時間が豊富な時でもある。自己の可能性に挑戦した乳児期のエネルギーを大学生はまだ十分に持っている。積極的に取り組み、壁に出会ってそれを乗り越えていく四年間を是非送ってほしいものである。

# 鞍馬の「火祭り」

鞍馬(くらま)は京都市の北部にある集落である。鞍馬山・鞍馬寺は行楽地として知られており、読者で「ここを訪れたことのある方は相当多いこと」思う。私は六歳から三十歳までこの地に住んだ。現在も、母のいる実家を訪れ、そこから近い自分の山と山小屋を見に、日曜日はたいてい鞍馬に行く。この他に毎年よほどのことが無いかぎり行く日がある。それは十月二十一日で、その夜に行われる「火祭り」に参加するためである。

私が祭りで鞍馬に帰るとき普通知り合いを何人が連れていく。その人々に後で会うと「感激した」「家に戻っても興奮して眠れなかった」といった感想を聞く。私のお客でない一般の見物客であった人々からも、このお祭りは他のとはちよと違う」と言われることがよくある。これらのことはほんざらお世辞だけのものではないだろう。この祭りの何が人々を惹きつけるのだろうか。

祭りは夜に行われ、照明および儀式のために種々の「火」が用いられる。第一は六時頃各家の前で点けられる、かがり(篝火)である。この火は祭りが終わる十二時まで絶やされない。第二の火はたいまつ(松明)で、片手で持つ、手まつ、肩でかつく、大たいまつ、そして大型で美しい「神楽まつ」と三種類がある。日本でも、つい三十年か四十年前まで生活に欠かせなかった火、そして今では火事の

もとなるからと禁じられている火、それが祭りの進行中、常に存在することに見物客は先ず感動するようである。

これらの火の中で見物客が最も驚くのは「大たいまつ」である。柴を堅く束ねて作り、子供用のは数キ口だが、青年は数十キ口のものを持つ。甲斐性(かいたけいせい)か(いしゅう)(まつ)とも言われ、男の子は自分で持てる最大のものに挑戦する。大たいまつは最後にその全てが、南北に長くのびた町の通りの真ん中に位置する、鞍馬寺山門前に集まる。この時の光景はすごい。数十本のたいまつが石段に立てられその炎は天をも焦がすほどである。メテオで流される写真や映像のほとんどは、このたいまつ林立の場面である。大たいまつは元々、鉾行列を華やかにするための、いわば脇役であったが、今ではすっかり祭りの主役になっている。



## 西邨顕達

【理工学研究所教授】

1938年栃木県生まれ。鞍馬育ち。京都大学大学院理学研究科動物学専攻博士課程単位取得退学。1977年同志社大学に入社。専門は、霊長類(サル+類人猿+人間)とくに南米に棲む新世界ザルの研究から人間の行動や社会の進化を明らかにすること。共著書に『サルの文化誌』『チンパンジー』等がある。

この祭りでは厳肅な神事の時を除き、サイ、サイリウ」のかけ声とそれに合わせた拍手が常に発せられる。かけ声の意味はよく分からないが、私自身は「祭礼」と解している。かけ声は祭りを演じている人はもちろんだが、見物客も発する。上述の山門前でのたいまつイベントもそれを囲む人々による、サイ、サイリウ」の大合唱がなければダメにならない。私が祭りに招いたある「ロンビ」人は、五年たった今でもこのかけ声が耳に残っている、と言っている。見物客をも祭りに酔わせることができる、これがこの祭りでも「火」以上に大きな魅力ではないかと私は思っている。鞍馬の火祭りをまだ見てない人、ぜひ一度見に来てください。ただし、足こしらははしかりして、そして、髪を灰や火の粉から守るための帽子がスカーフも忘れず。

本学教員の推薦する

# VIDEO

## 至上のジャズとその記録

ジャズと関わりの深い映画は多い。ジャズが背景に使われている映画は数多いし、ジャズ・ミュージシャンや音楽それ自体をテーマにした映画もある。ビデオの紹介にあたって、ジャズに関係する面白い映画を考えたのだが、あれこれ悩んだ末に、結局、落ち着いたのが一九六〇年に日本で公開されたパート・スターンの作品『真夏の夜のジャズ』であった。著名なルイ・マル監督の『死刑台のエレベーター』(一九五七年)やロジェ・バティムの『危険な関係』(一九五九年)のような、優れた映画としての楽しみと、ジャズよさをあわせて楽しめる作品が本来ならば取り上げられてしかるべきなのであろう。

なぜ、一九五八年七月に開催されたニューヨーク・ジャズ・フェスティバル(ロード・アイランド)の記録映画『真夏の夜のジャズ』だったのか。何はともあれ、その理由の第一は、これが最も優れたジャズ音楽の長編ドキュメンタリーであるだけではなく、フェスティバル自体が伝説になっているからであり、そう言ったからといって、おそらく異論は少ないように思われるからでもある。

もちろん八十二分という限られた映像記録にまとめられたこの作品が、当時のジャズ音楽の全体像をよく捉えているといっわけではないし、その時代の最先端を映し出しているといっわけでもない。四日間のフェスティバルをまとめるにしても、八十分余ではそもそも無理がある。とはいえそこに、ジャズの輝きと楽しみが十分に詰まっていることは間違いない。

デキシーランドのグループを舞台回しにしながらい、ルイ・アームストロングからシニシー・シエフリーあるいはマックス・ローチの姿まで、そしてフェスティバルを楽しむ聴衆の映像を数多く入れながら、フェスティ



バルの熱気を伝えている。ロード・アイランドで休暇をとる人々や子供達が遊ぶ姿、ニマイルの沖合で行われたアメリカス・カップのトライアルレースなども織り交せて、ドキュメンタリー作品としての面白さも感じさせる。

しかし何といってもこの映画は演奏に価値がある。私的な好みで恐縮だが、特にアタ・オティには、即興の楽しみが深い。ドラムのシニシー・シヨーンズとのやりとりは、まさにジャズそのものだ。後に彼女自身も、ここでのパフォーマンスがビッグネームへの大きな転機になったといっているが、なるほどインパクトの強いものであった。ジャズにあまり関心がなくとも、ロックンロールではチャック・ベリー、リノエルではタヘリア・ジャクソン、ヤヤボウ・ラウダがダイナ・ワシントン姿も見える。アメリカ音楽の魅力とともに、音楽にジャンル分けが不要なこともよく伝わってくる。

### 『真夏の夜のジャズ』

『Jazz on a Summer's Day: Film by Bert Stern 1958』

監督：パート・スターン 発売元：株JSP・ビジュアルワークス

# BOOK 本学教員の推薦する

## 生き方の転換を

ちょうど私が大学に入学したのは、一九八九年、バブル経済の真只中であった。その後、一九九〇年にバブルが崩壊し、以来、私の二十歳代の十年間、日本は不景気にあえいだ。バブル経済とは、いったい何だったのだろうか？日本人全員が欲に目が眩んだ結果として、地価と株価が異常に上昇したというところなのだろうか？皆が正気に戻り、バブルの負の遺産が整理できさえすれば、問題は解決するのだろうか？

本書によると、その答えは、ノーである。バブル発生前夜、日本の銀行にはたくさんのお金が残っていた。当時の銀行には、資金運用の知恵も技術もなかったため、結局、それまでどおりの「堅実な」運用方法として、土地担保融資の拡大が行われたのである。

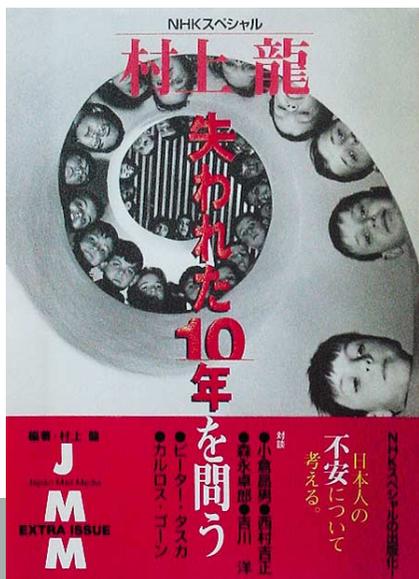
このような銀行の行動から窺えるように、バブルを生み出し、その後の不況の原因となったのは、すでに機能不全に陥っていた従来の日本型経済システムと、それを所与の前提とした日本人の行動様式に他ならない。もちろん、日本型経済システムはある時代までは、立派に機能していた。このシステムは、いつから機能不全に陥ったのが？

ある意味平凡な答えであるが、本書によれば、それは高度経済成長の終了時だという。高度経済成長によつて、日本は、それまでの半農半業国から、近代的な工業国へと変貌し、われわれの生活水準は格段に改善された。われわれは、高度経済成長を静かに誇つてよい。問題なのは、高度経済成長終了後、都市の過密化、劣悪な住環境、通勤地獄といった問題が何一つ解決されていないことである。

「いい企業に就職すれば一生安泰」といつ時代は

もはや過去のものとなった。これからは、常に自分の能力を磨きつつ、自分の生き方を自分で考え選ぶしかない。その前提として、これまでのわれわれの態度を改めるとすれば、無知であること自体が罪であることを認識し、そのため、自分が属する集団の外からの視点を常に持たなければならぬ。このように本書は述べる。

「この『』は、もちろん、私自身にも当てはまる。そういつわけでも私は、きょうも、自分は『』からどう生きようか、『』すれば自分は幸せになるんだらう」と悩む『』、大学教育と校務を行う一方、『』この大学をクビになつても大丈夫なように』と、せつせと研究をし、論文を書いている。



NHKスペシャル  
『村上龍 “失われた10年”を問う』  
村上龍編著 NHK出版 2000年 定価1700円(税別)

資格を持つこと、  
そしてつねに目的意識を  
持つて生きること。

私は、母から「これからは女性も自立が必要な時代になりますよ」と言い聞かされてきました。自立するには資格を取るのが早道だろうと考えた私は、卒業後は家業を手伝いながら司法書士をめざしました。一九九四年、無事合格して、現在の司法書士事務所就職しました。主な仕事は不動産登記です。ところが仕事を始めて、いきなり壁にぶちあたりました。それは立会という司法書士にとってはとても重要な席に同行したときのこと。不動産の登記に必要な全書類をチャックし、決済が成立する場面で、相手方の付き添い人に、「お嬢さん、これでいかがでしょう」と言われてしまったのです。不動産業界は、まだまだ男性社会。女性が立会に赴いても、「先生は、どこにおられますか？」と言われてしまつ世界なのです。これは心して



## 第10回

## My Life. 「仕事」

が仕事を通して見た「社会」とは？  
ことの意義とは？

う先輩の声に耳を傾けながら、  
生生活の現実を考える機会にしたいものです。

かからなければと気を引き締めて仕事に臨みましたが、経験を積むにしたがい、余裕が生まれたでしょう。話題にまつたときなど、女性の司法書士であることをネタに話をはずませるコソを覚ええました。学生時代のアルバイトでも、女性であるというだけでやりたい仕事に就けなかつたこともあつたし、社会に出てからも、男性社会のブレイシャーを感じるものが多々あります。しかし、要は相手に文句を言わせない。実力”を身につけることです。方法は、資格であったり、経験であったり、人によって違うと思いますが、確かなことは、実力は自信につながり、自信は相手に安心を与え、自分への関心呼び覚ます武器になることです。

学生時代は、たくさん時間があつり、多少のお金もあるでしょう。この時期に、多くの経験を積んで欲しいと思います。そして、ひとつでもいかに自立の力を身につけて欲しい。何かひとつ身につけると、それが自信となつてステップアップして、いつの間にか多くの

技術を修得しているという結果に結びつくように思います。仕事に結びつかない趣味でもいいと思います。それを深めていくと、人間関係が広がり、多方面からの判断ができるとともに、人間性も深まります。司法書士事務所勤務する前に手伝っていた家業は、自分の意思に反する仕事でした。しかし、司法書士として働き出し、ふと当時の経験を仕事に生かしていることに気づいてびっくりすることがあります。どんな仕事でも学ぶべきものはあるものなのです。

今は司法改革の嵐の中にあります。司法書士の仕事もコンピュータ化とあいつつて、技術的にも人間的にも真に実力をつけなかつたやっつけない時代にならうとしています。後輩の皆さんには、柔軟な思考ができる学生時代に何か一つ修得して自信をつけて社会に出ていただきたいですね。



西川 敏恵さん

【1991年法学部卒業】  
武村司法書士事務所勤務

## PROFILE

西川さんの仕事は、生涯で最大の買い物である不動産の登記申請にかかわるもの。それだけに関係者のさまざまな思いが交錯し、とても神経を使う。とくに相続登記や財産分与の登記がからむと複雑な様相を呈することもある。そんなときは、当事者の立場に立つて物を考え、誠意を尽くせば、必ず相手に伝わり、理解いただけるもの。「ただ民法との関係が深いだけに、司法書士の知識だけでは限界を感じました」と、司法試験合格という新たな目標を立てて、勉強を続けている。



ノーベル化学賞で話題になった電気を通すプラスチック「ポリマー」。大学時代は高分子化学の研究室で、この「ポリマー」を新しく作る研究をしていくうち、化学の研究職に就きたい気持ちとモチベーションに従事しようという思いから、日本ペイントに入社を決めました。

塗装業界というと、一般の方には分かりにくい分野かもしれませんが。私自身も当初は聞きなれない言葉ばかりで戸惑いました。初めての仕事は、自動車用の「電着塗装」。ハケやスプレーを使用せず、車のボディーに帯電させることできれいに膜を塗装するシステムの研究開発でした。「電着塗装」は、何層にも重ねて塗装されていく自動車の一番下の層にサビ止めとして塗られるものです。研究していく中で、自分の考え方は違った方法で進行を余儀なくされるなどシレンマに陥った

「エコロジー」に対応した地球や人にやさしい塗料を開発中。

# シリーズ 私と「My Job,」

『ONE PURPOSE』では、さまざまな分野で活躍する先輩を訪ね、毎号「私と仕事」をテーマにお話を伺っています。

社会へ出てかれこれ何年。先輩たちあるいは「生きる」歩んだ道も経験もそれぞれ違将来の自分にふさわしいキャリア・プランと学



こともありました。入社してから三年ぐらいの周期でさまざまな部署を経験して、そうした思いは解消されていきました。お客様のクレーム担当の時は、塗装の剥がれなどで商品を投げつけられたこともありましたが、「落ち込まずにやってみよう」と冷静に事後処理をした結果、逆に喜んでいただけた思いがあります。お客様の声が直接聞けるこうした部署での経験は、今の研究に生きていると思います。

近年あらゆる分野で環境問題がクローズアップされていますが、塗装業界でも今後の大きな課題として取り組んでいます。私自身も現在、環境にやさしい防食システムの研究開発に取り組んでいます。有害な重金属の入った塗料を使用しないことをテーマに、最終的には塗装システムの開発に取り組んでいます。地球や人にやさしい塗料をめざし、私たちの生活にも直接関係ある問題という意識をもって研究に臨んでいます。社会に出て十

三年たちますが、研究だけ、お金を稼ぐだけでは仕事はやっていけないと思います。仕事を通して自分のレベルアップをはかり、それが社会に還元されることが充実感や喜びにつながっていると実感しているからです。

研究で行き詰まったときなどは、高校時代から続けているテニスでリフレッシュしたり、いろいろなことに興味を持つことで仕事に対する情熱やモチベーションを高めています。自分の仕事が社会に貢献しているかを感じるためにも、いろいろな角度から物事を見る目が必要だと思っています。

一つの分野の研究だけでは、仕事は成り立っていきません。それは研究職以外でも同様だと思います。学生時代は、好きな分野に偏りがちですが、先入観に促わらず、さまざまなことにチャレンジしてみてください。広く勉強したり、興味をもつことが実社会に出たときに生きてくるはずですよ。

## PROFILE

学生時代の苦手科目だった物理化学が、現在の仕事で必須です。しかし、厳しいことで有名な科目を野尻さんは、満点で修得した。「ただ苦手だからといって、そのままにしておくのは損だなと感じて勉強しました。仕事では、苦手だからできないとは言えません。本当にやっておいて良かったと思います。」実際はじめてみると、面白味があったり、自分の得意分野になることもある。学生時代は、広く興味をもち、基礎学力をつけておくことが大切と語ってくれた。



野尻 弘之 さん

【1987年工学部工業化学科卒業】  
日本ペイント株式会社 開発研究所  
研究開発センター 開発研究所  
防食グループ リーダー

お知らせ

# ANNOUNCEMENT

## 喫煙は指定された場所で!

2000年10月1日から、以下のようにキャンパスでの喫煙の制限をもうけました。

- 1、館内は、原則として禁煙とします。
- 2、館外は、灰皿が設置された場所以外は禁煙とします。
- 3、歩行中の喫煙は禁止します。

喫煙マナーを守り、快適なキャンパスづくりのために、ご協力をお願いいたします。

## 第96回同志社グリークラブ 定期演奏会

同志社グリークラブは今年で創部96年目を迎える国内でも有数の、歴史ある男声合唱団です。創部以来「聴衆と一体となった音楽」を目指し、国内外を問わず多くの演奏活動を行ってきました。今回、2004年の創部百周年を前に、もう一度原点に帰るべく、約20年ぶりに京都で定期演奏会を行うことにしました。学生気質の変化、学外活動の多様化などにより、部員数の減少に悩まれた時期もありましたが、今年は多くの新入生が入部してくれたおかげで、部員数も60人を超え、ホール全体に響き渡る力強い歌声をお聞かせすることが出来ることと思います。

【日 程】2000年12月16日(土)

【開 場】17:00 【開 演】18:00

【場 所】京都コンサートホール大ホール

(地下鉄丸線北山駅下車、1番出口から南へ徒歩2分)

【入場料】SS席 2,000円(座席指定)

S 席 1,500円(座席指定)

A 席 1,000円(当日16:30から座席券交換)

【問い合わせ先】同志社グリークラブ

TEL.075-251-3185(呼)

ホームページ <http://www.donet.gr.jp/gleeclub>



## 課外講習(Ski)参加者募集

本年度も恒例のスキー講習を長野県野沢温泉スキー場で実施します。講習は参加者の技術レベルに応じた少人数の班編成で行います。募集対象者は、学部生から大学院生までのすべての同志社大学生です。

スキーを始めたい人、もっとうまくなりたい人は、是非参加してください。

【日 程】2001年3月5日(月)~8日(木)3泊4日

2001年3月12日(月)~15日(木)3泊4日

【スキー場】長野県野沢温泉スキー場

【参加費】38,600円(交通費・用具レンタル料を除く)

その他に、リフトカード保証金1,000円(講習会終了後返却)が必要

【募集期間】12月1日(金)~12月22日(金)

【申込場所】京田辺 体育係(磐上館)

今出川 教務課(弘風館1F)

【問い合わせ先】体育係(京田辺校地盤上館) TEL.0774-65-7510

## 同志社大学マンドリンクラブ 第137回定期演奏会

【日 程】2000年12月3日(日)

【場 所】京都府長岡京記念文化会館

(阪急長岡天神駅下車、西口から徒歩5分)

【開 場】17:30 【開 演】18:00 【入場料】500円

【問い合わせ先】同志社大学マンドリンクラブ TEL.075-251-3185(呼)

## お便りをお待ちしています

『ONE PURPOSE』は、学生のみなさんと大学とのコミュニケーションをはかることを目的として発行しています。本誌に関するご意見や企画のご提案、日頃学生生活を送っている中で気づいたことや疑問に思うこと、また悩んでいることなど、ささいなことでも結構ですので、どしどし広報課までお寄せください。

## ONE PURPOSE <ワンパーパス>

同志社大学通信125号

2000年12月1日(4・6・10・12月年4回)発行

発行 同志社大学 広報課

〒602-8580 京都市上京区今出川通丸東入

TEL. 075-251-3120 FAX. 075-251-3080

E-mail [ji-koho@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-koho@mail.doshisha.ac.jp)

